

はじめに

著者	吉山 直樹
雑誌名	看護研究交流センター事業活動・研究報告書
巻	14
発行年	2003-06
URL	http://hdl.handle.net/10631/216

はじめに

私共の研究活動が、やっと第一歩を踏み出しました。

新潟県立看護大学には、「看護研究交流センター」という全国の公立看護系大学では2番目とされる研究機関が平成14年4月の4年制大学開設時より併設されております。多くの看護系大学が研究環境の恵まれない条件下で苦闘しているのと比較すると、幸せなスタートでした。

当センター設立に関わった本県の関係各方面のご理解とご支援には、心より感謝申し上げます。

本報告書は、看護研究交流センターの初年度の事業活動報告および研究概要をまとめたものです。

脳科学の進歩によって、私共の「知」のあり方が解明されてきました。

「知」の集積が脳内の巨大なネットワークによって構成された倉庫、いわばデータ・ベースであることは良く知られていますが、一方、最近この「知」の収納や引き出しに伴って多くの障害が発生することが判明しています。特に問題となるのは、この「知」の入出力を担当する部分の劣化です。人にときおりみられるアンヒューマンな異常行動の精神病理には、この劣化が強く関与している、と推測されています。

実践の学である看護の分野のプロフェッションを担う人には、この「入出力部分」を病む人達のヘルスケアを担当のみならず、自らが研究者として自己と自分の所属する組織の「入出力部分」の点検を行うことが、時代の要請として強く求められています。

これらが適切に行われるならば、膨大な「知」の有効活用が可能となり、多くの成果が得られることでしょう。

私共の新しい「看護研究交流センター」は、大学人のみならず広く県民に門戸を開いたヘルスケア情報の集積と教育・研修・研究の良き「入出力」補助の機関としての役割を果たしていきたい、と考えております。

今後とも皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

新潟県立看護大学看護研究交流センター
副センター長 吉山直樹